



おいしい山形 旬紀行

観光物産やまがた

平成17年1月1日号

第5号

発行
社団法人 山形県観光物産協会
会長 本山 彌
住所: 〒990-8580
山形市城南町一丁目16番1号
霞城セントラル1F
TEL: 023-647-2333
URL: www.yamagatakanko.com
題字 本山 彌

新しい観光についての提言

社団法人山形県観光物産協会副会長
株式会社ヤマコー 代表取締役社長

武田 吉則



新年明けまして
おめでとうござい
ます。

新しい年を迎
え、会員の皆様
は、お健やかにお
過ごしのこととお慶び申し上げます。

昨年実施しました、「おいしい山形」デ
スティネーションキャンペーンでは、官
民一体となり取り組んだ結果、大きな成
果を挙げることが出来ました。

今後の本県観光振興を図るうえでも大
きく寄与出来たものと考えております。

さて、「観光立国」「観光立県」の言葉
に示されるように、今、改めて「観光」
への取り組みが、国、地方ともに注目を
されております。これは正に地域再生への
「政策」として捉えられているからに他な
りません。

観光政策は一地域のみでは完結しま
せん。広域観光、広域連携が重要になっ
ております。

私はここで、東北は一つのエリアとし
て捉え、時代に即した「新しい観光」に
ついて、昨年青森県で開催されました東
北経営者大会における提言をもとに二つ
の提言をしてみたいと思います。

1 外国人観光客誘致について

2005年の日本人海外旅行者数、約

1300万人に対し、訪日外国人旅行者
数520万人と、その差2.5倍、外国
人旅行者受入れ数は、世界2位と先進諸
国では最下位に近い数字となっております。

国では昨年より外国人の受入れを積極
的に展開しようとするプロジェクトが動き出
しました。「ビジット・ジャパン・キャン
ペーン」です。2010年までに外国人
観光客を1000万人まで増やす計画で
す。国の動きを受けて、観光立国懇談会
は「住んでよし、訪れてよしの国づくり」
を基本とし、日本ブランドを発信すると
ともに、外国人が訪れやすく、快適に旅
行が出来るような環境づくりが重要であ
るとしています。東北でもこの「ビジット・
ジャパン・キャンペーン」に呼応し、行政、
経済団体、観光関連団体が共催し、昨年
2月(山形市)・10月(花巻市)において、
外国人観光客誘致促進シンポジウムが開
催されました。韓国、台湾、米国、中国、
香港の5大市場から旅行者やマスコミ
関係者等を招き東北の観光資源を大々的
にPRしております。

東北を訪れる外国人の観光客はまだま
だ少なく(全国の4.5%)。本県はその
1割程度と見込まれております。

本県では今年4月、韓国ソウル市に宮
城県との共同でソウル事務所を開設する
こととなりました。

日本を訪れる旅行者数は140万人と
最も多く、スキーブームでもある韓国か
らの旅行者の増加が期待される場所で
あります。

外国人観光客の少なさの最大の要因と
して日本は、「遠い、判らない、高い」の
3つに絞られるようです。

東北には、四季折々の景観、豊富な温
泉、歴史、文化、食等、新たな日本を発

見してもらえらる要素はたくさんあるはず
です。

外国から見た「やまがた」は1つの点
にしか過ぎません。点から線へ、線から
面へと受け皿を大きくする必要があるま
す。外国人観光客の受入れのための環境
整備を進め、東北が一つになり、東北、
山形を世界に発信していくことが肝要と
考えます。

2 世界遺産の登録推進について

人類共通の世界遺産として登録された
文化遺産、自然遺産は、将来の世代へ伝
えるための維持、保存が求められており
ます。

一方国内のみならず海外の旅行者に
とつても著名な観光資源となっておりま
す。

我国では11件の遺産(文化遺産9件、
自然遺産2件)が登録されており、昨年
熊野古道などを抱える「紀伊山地の霊場
と参詣道」が新たに認められました。

しかし、東北では自然遺産の一つの「白
神山」だけであります。

本県では、「出羽三山」を核とした登録
を目指し、その可能性を探る「世界遺産
講演会」を昨年9月に開催し、今春をめ
どに県内候補地を確定する予定となっ
ております。

東北には歴史や伝統、文化、豊かな自
然を背景に、世界に誇れる文化遺産、自
然遺産が多数あります。

新たな観光振興の施策としても、世界
遺産の登録推進に向け、強力な運動を提
唱したいと思います。

最後になりますが、今後とも会員の皆
様とより一層の連携を図り、観光振興の
ための各事業に取り組みで参りますの
で、本年もよろしくお願ひ申し上げます。